

## アンサンブル「ラ・レジュイサンス」

### La Réjouissance

アンサンブル「ラ・レジュイサンス」は2018年6月にケルン音楽舞踊大学の生徒により結成される。18世紀フランスの民族舞踊に存在し、時折組曲の楽曲の一つでもある「Réjouissance」は「歓喜」という意味合いも持つ。

主な楽器編成は、フラウト・トラヴェルソ、ヴィオラ・ダ・ガンバ／バロックチェロ、チェンバロ。そして他にも様々な編成を試みている。2019年7月よりヴェルナー・リチャード-ドクター・カール・デルケン・シュティフトゥング（Werner Richard-Dr. Carl Dörken Stiftung）による奨学生。

## マリヤ ミリュズィナ (Mariya Miliutsina)

フラウト・トラヴェルソ

Flauto traverso

1992年ベラルーシ、ピテプスクに生まれる。彼女の音楽教養はフルートから始まり、学校では「若くして音楽を演奏する事」に焦点を当てて勉強した。卒業後にはベラルーシ州立フィルハーモニー管弦楽団のソリストとしてステージに上がる。学生時代に多くの様々なコンサート、コンクール、そしてベラルーシ、ロシア、ウクライナ、モルドバ、ポーランド、ドイツで行われたマスタークラスに参加。2011年彼女が室内楽・オーケストラ奏者として活動していたミンスク州立音楽アカデミー入学。2013年さらなる音楽の拡張の為ケルン音楽舞踊大学に入学。フルートをジェニファー・ゾイベル（Jennifer Seubel）教授に、フラウト・トラベルソをマンフレッド・ツィンマーマン（Manfred Zimmermann）教授に師事。2018年8月より同大学でフラウト・トラヴェルソをレオナルド・シェルプ（Leonard Schelb）教授に師事。2013年ドレスデン「Musik am Hof August des Starken」に、2018年ヴッパータール・サマーアカデミーにフラウト・トラヴェルソ奏者として参加。

## アマリリス ドゥエニャス (Amarilis Dueñas)

ヴィオラ・ダ・ガンバ／バロックチェロ

Viola da gamba/ Baroque cello

1998年スペインに生まれる。5歳からチェロを弾き始める。2016年よりケルン音楽舞踊大学でチェロをマリア・クリーゲル (Maria Kliegel) 教授に、2018年よりヴィオラ・ダ・ガンバ／バロックチェロをライナー・ツイッパリング (Rainer Zipperling) 教授に師事。ジョルディ・サバル (Jordi Savall)、パオロ・パンドルフォ (Paolo Pandolfo)、ブルーノ・コックセット (Bruno Cocset)、ナタリア・グットマン (Natalia Gutman) のマスタークラスに参加。数々の国際コンクールで受賞。(「Pau Casals International Award」、「Oncurso de Música Antigua Conde Oeiras」等) ヨーロッパ全土でのコンサートを開催。(「Membran Jesu Nostri」、「ブクステフーデ／ドイツ」) (「Festpielem2018」、トロンヘイム、オラブス教会／ノルウェー) 2014年オーケストラのソリストとしてデビューを飾る。現在学生の傍ら定期的に「ラ・レジュイサンス」として数々のコンサートを開催。

## ラーズ ホバイン (Lars Hobein)

チェンバロ

Cembalo

1995年ドイツのハーゲンに生まれる。7歳からピアノのレッスンを受ける。2004年コンクール「Concours Musical de France」にて第2位を受賞、翌年同コンクールにて第1位を受賞。14歳よりハーゲンの教会オルガニスト兼合唱隊指揮者を務める。2014年ケルン音楽舞踊大学入学。チェンバロと通奏低音をミヒャエル・ボルグシュテーテ (Michael Borgstede) 教授に師事。彼は室内楽に好んで打ち込み、常に「歴史的な情報」を元に演奏、伴奏する事に尽力している。2018年ハーゲン室内管弦楽団とブランデンブルグ協奏曲を共演。その他国外のフェスティバルでも演奏。(「Festiwal Muzyki Klasycznej w Solcu nad Wisla」)